

令和8年度第1回埼玉県ケアラー支援に関する有識者会議 議事会議

日時:令和8年5月29日(金)10:30~12:00

場所:オンライン開催

1 開会

- 事務局から開会挨拶

2 議題

(1) ケアラー支援に関する令和7年度の実績について

- 事務局からケアラー支援に関する令和7年度の実績について説明
- 意見交換

[廣澤健一 委員]

- ワーキングケアラーのセミナーの受講者数は、前回までなかなか増加しなかったため、周知する団体の数を増やすことに協力させていただいた。目標には達成していないが、おおよそ倍になったということで少し安堵している。引き続き周知協力を行っていきたい。

[田中悠美子 委員]

- 昨年の取組で、介護者サロン設置運営支援研修の取組が進んでいると認識しているが、立ち上げて終わりではなく、いかに継続していくかも大事だと思う。そのため、参考に実際に受講された方々の属性を教えてください。

[事務局(地域包括ケア課)]

- 研修を受けた団体は市町村や地域包括支援センター、障害サービス事業所、介護者支援団体、病院、社会福祉協議会、介護保険サービス事業所などである。

[田中悠美子 委員]

- やはり、地域包括支援センターや事業所等の公的な支援者の立場の方が多いという印象を受ける。こうしたサロンの活動においては、多様なケアラーに対応できるよう、開催する曜日や時間、オンラインでの実施方法等を工夫も必要であると思う。

[大谷誠一 委員]

- こどもの居場所の数について、草加市が学区別ごとに設置をして取り組んでいるという情報も聞いている。
- 県内で 826 箇所となっているが、居場所がある地域に偏りがあるのかまた、今後のどのような取組も伺いたい。

[事務局(こども支援課)]

- 地域による偏りについて、基本的にはどの市町村においても居場所は満遍なく存在しているという認識である。
- また、アドバイザー派遣や、セミナー等でやってみたいという人を掘り起こしていく等の取組を行っており、引き続き行ってまいりたい。

[岩田知子 委員]

- 介護者サロンを設置する市町村数が残り1市町村であり、それも今年度に設置予定ということでご報告をいただき、素晴らしいことだと感じた。
- 今後、サロンについては設置しているところの継続的な支援が重要と思っている。継続的に支援がされているのか、内容はどのようなか等も、追跡できるようなことが今後できればよい。ケアラーのサロンだけでなく、地域にあるサロンも自然消滅してしまったという話も耳にしている。そのため、しっかりと継続できる体制が取れているかという視点も必要と感じている。
- 地域包括支援センターの認知度という点で、30～50 代の働き盛りの一般の方々が、親世代のケアに直面することになった時、相談窓口に迷わず地域包括支援センターに向かっていけるのか心配がある。そこで、ワーキングケアラーに関するセミナー等の参加者も増えてきているが、企業の研修会等に地域包括支援センターの職員を招く等の工夫をしているか伺いたい。

[事務局(地域包括ケア課)]

- 介護者サロンについては、各市町村に介護者サロンの設置状況等についてアンケート調査等を行っている。また、研修事業も行っているので、そうした取組を通じて状況把握やフォローアップをしていきたい。
- 地域包括支援センターの認知度について、ワーキングケアラーの方が親の介護に向かった時に、相談しようという意識を持てるかが大事である。県の出前講座では、ワーキングケアラーに係るものもあり、そこで介護に関する相談窓口ということで地域包括支援センターというキーワードについては触れさせていただいている。

[上原美子 委員]

- 大学教職員等向け研修について、大人への移行期の支援という点で貴重な取組だったと思う。昨年度実施した成果があれば教えていただきたい。

[事務局(地域包括ケア課)]

- 大学教職員向け研修については、研修後に若者ケアラーやヤングケアラーについては知っていても具体的にどういったことで困っているか、どういった支援が必要なのかを知ることができてよかったという話を伺っている。今年度も引き続き行っていくため、可能な限り県内全ての大学で受講していただけるよう努めてまいりたい。

[朝日雅也 委員長]

- 取組の中で課題が浮き彫りにされてきたことも、次に向かう重要な成果の1つと思う。今後の促進に向けてのヒントもいただけたのではないか。
- 全体として現状に満足するだけでなく、しっかりと取組を前に進めていきたいという思いが共通していたと思う。

(2) ヤングケアラー支援に係る取組について

- 事務局からヤングケアラー支援に係る取組について説明
- 意見交換

[廣澤健一 委員]

- 実態調査を行うことは非常に良いことだと思うが、小学生も含めて記名式ということは考える必要があると思う。名前を必ずしも書かなくてはいけないかどうかは検討する必要があると思う。

[田中悠美子 委員]

- 2020年に埼玉県では、高校生世代に日本で最初に調査を行っているが、それ以降は実施がない。小中学校は市町村の教育委員会が所管し、高校生は県の方で所管されていると思うため、役割分担など確認しながらの定期的な調査は必要と思う。高校生の調査は県単位でご検討いただけるといいと思う。
- 参考に長崎県は高校生の調査は同じ質問項目でできるような体制を作っている。把握された学生においては、各学校で対応できるように情報共有するシステムを作っているようである。

- 記名式については、こども家庭庁の説明でも強制ではなく、地域の実情に応じてということになっている。基本的には無記名で最後に相談したい人は記名するというように選択できるようにしている自治体もある。調査のノウハウなどを県として情報提供をしていくというのはすごく大事であると感じている。

[田中洋安 委員]

- 学校教育活動の中でアンケートの実施の時間を設ければ、回収率は上がるが、家庭でゆっくりと回答してもらう方がより実態をつかめるのではないか。また、田中悠美子委員のご意見の中で記名するか選択できる方法があったが、選択ができる方法の方がより回収率が上がると感じた。
- また、それよりも前に、ヤングケアラーの概念を、教育現場でも扱わなければいけないと感じている。

[事務局(地域包括ケア課)]

- 記名式調査については、国も記名式でなくとも実態が把握できれば良いということを出しているため、柔軟に検討していきたい。
- 実態調査に当たっては、教育と福祉の連携が重要と考えており、今後も教育と連携して市町村を支援してまいりたい。
- また、家庭で回答する方が回収率は上がってくるというご意見もあった。いただいた意見も踏まえて検討していきたい。

[朝日雅也 委員長]

- 必ずしも記名式である必要は無く、実態を的確に把握する方法を採用していくことの重要性が委員の発言の中で共通していたと思う。
- 学校では、こども達の状況から気づくことも多いと考えられ、そういった観察等から迫っていくことも必要であるため、サポートの体制にも向き合っていくことが重要。
- 市町村では、実態調査を行う際に、教育部門との連携の仕方がわからないということも想定されるが、連携がうまくいくための知見があれば伺いたい。

[事務局(地域包括ケア課)]

- ヤングケアラー支援コーディネーターの情報交換会等を開催し、市町村によっては、教育と福祉で連携ができている所もあると伺っている。そうした先進的な取組や好事例を共有し、市町村担当部署の悩みを解消していくことも大事であると感じている。

[上原美子 委員]

- 埼玉県ではヤングケアラー支援のための教育・福祉合同研修会を開催しており、同じ市町村の方々が顔の見える関係性づくりを行う研修もされているため、そういった機会も使って調査を進めることもできるのではないかと。

[田中悠美子 委員]

- どこが主体となって調査をするか定まらない難しさもあると思う。教育部門においては、把握をして支援をするまでが重要であるため、福祉行政が担うことになると思う。東京都では、こども家庭センターが調査を担うということを都が示している。自治体によっては重層的支援体制を所管する部署が担当している場合もある。
- 実態調査については、色々なノウハウが必要となるため、情報提供や基盤づくり、検討の仕方を示していく必要があると思う。その際には、学校の先生に負担が無いような進め方の検討も必要だと思われる。
- また、埼玉県ではヤングケアラーサポートクラスという取組も行っている。そうした取組でこども達がヤングケアラーを知る機会を少しずつ広げていると思う。普及啓発と相談しても良いという安心感と共に実態調査を行っていくことが重要だと思う。

[朝日雅也 委員長]

- 実態調査については1つの方法で確実に実態に迫るということではなく、様々なチャンネルや機会を全体として捉えながら必要な支援に結びついていくということが重要と感じた。県においては、本日の意見を参考に取組に生かしていただければと思う。

(3) 第3期埼玉県ケアラー支援計画について

- 事務局から第3期埼玉県ケアラー支援計画について説明
- 意見交換

[加藤英明 委員]

- ケアラーの健康的な生活という点で、様々な分野から様々なニーズをとらえた全体的な支援を目指すという点は非常に良いと思う。
- ケアラーの意識調査の項目を見たが、介護保険制度や高齢者に関係することは多く書いてあるが、こどもや障害分野、生活困窮等の様々な分野について

は記載が無かった。ケアラーの課題は、複合的に絡んでおり、重層的な支援が必要であり、こどもや障害、生活困窮の制度の理解も必要と考える。そういった様々な分野の認知度も向上していくことが良いのではと思う。

[朝日雅也 委員長]

- それぞれの分野で支援の対象となり得る人たちに対して、その分野での政策が充実し、サービスが行き渡っていけば、結果としてケアラーの支援につながる。
- それぞれの分野がケアの対象となる方へのサービスの提供を充実させ、その時には実際に対象者をケアしている存在がいるという意識を明確にしていくことも全体像の中で盛り込んでいただくと良い。
- また、基本目標2で新設されたアウトリーチの取り組みを行っている市町村数について、方向性として、具体的にイメージとして考えていることがあれば伺いたい。

[事務局(地域包括ケア課)]

- 例えば、ヤングケアラーでしたら子ども食堂等に来ているこどもに対して、もしかしたらヤングケアラーかもという形でも見つけ出すというようイメージをしている。その他にも、地域包括支援センターの職員が介護の相談に乗っている中でケアラーのことも気にしていただく等がある。
- 様々な目でケアラーの方を見つけることができ、意識することをより強めていただきたいというイメージはある。
- 県では、包括的な支援体制の構築を目指しており、幅広い複合化した課題を拾うこと、包括的な支援体制の中で含まれている。複雑化・複合化した課題には、ケアラーの方も含まれており、そうした課題に対してアウトリーチの体制を整備している市町村を想定している。

[朝日雅也 委員長]

- 1つの政策だけでニーズに迫るのではなく、複合的なアプローチがある中で、その時に市町村としてアウトリーチを意識化するということと受け取った。県からこの指標を説明するときには市町村に対してアウトリーチの概念を伝えていく観点は必要だと感じた。

[有井有司 委員]

- ケアラー支援の取組は、充実してきたと感じている。

- ケアラーを支える人材については、さらに進めていただきたい。現場感覚で申し訳ないが、例えば地域包括支援センターに相談に行っても人がおらず、直ぐに対応に繋がらないことや、ケアマネジャーが見つからないので、自分で探してくださいと言われる地域もある。
- ケアラーを支える人が増えていかないとケアラー支援は先に進まない。
- 相談したくても地域包括支援センターやケアマネジャーが忙しくて相談できないというような状況になってしまうことを危惧している。
- 特に、ケアラー支援は、様々な市町村で行っていると思うため、成功事例だけでなく困難だった事例なども集めて、共有を図ると良いのではないか。

[田中悠美子 委員]

- 包括的な支援体制の推進はとても重要であると思う。市町村に対して、県内の様々な情報を共有できるようにしていくことも必要であると感じている。
- 事務局に伺いたいのがケアラーの生活支援という項目はどのような項目が想定されているのか。

[事務局(地域包括ケア課)]

- ケアラーの生活支援は、第 2 期計画の中にも位置付けされており、主に生活困窮や経済的支援の取組が掲載されている。

[田中悠美子 委員]

- ケアラーの生活を支えるという観点では、経済的なところも重要と思うが、様々な制度を利活用できる。就労、就学の支援だけでなく、健康面への支援、メンタルヘルスの心理的な支援がある。
- 総合的にケアラーの生活基盤を支え、自分らしく暮らせるための支援として具体的なメニューを作っていくことが求められている。
- ケアラーの負担軽減を図ることや被ケア者の生活を充実することで、ケアラーのサポートにもなっていく。両輪として、ケアラーの生活支援や、将来への支援も含めた視点が重要になってくるため、ぜひ検討を深めていただきたい。
- また、ヤングケアラー支援のスタートブックが令和5年に発行されているが、これも包括的な支援体制の構築の一環になると思う。情報も古くなってきているのでリニューアルしていく必要があるのではないか。あるいは、ヤングケアラーに限らず、ケアラー支援のスタートブックのような情報をまとめるということも、行政におけるケアラー制度の推進に入るのではないかなと思う。

[土屋裕子 委員]

- 地域包括支援センターで仕事をしているが、現場ではまだケアラー支援の知識が弱いところがある。もう少し具体的な研修などがある、地域包括支援センターとしても繋ぎやすくなるのではないかと感じている。
- また、地域包括支援センターの認知度については、課題であると感じている。現代において情報がありすぎる。そのため、地域包括支援センターと調べれば出てくるが、誰の目にも止まるところに案内していかないと浸透していかない。企業や現場の努力等、様々な方向からやっていけると良いと感じた。
- さらに、専門職同士の横のつながりも弱い分野がある。各分野においてつながり、重層的な支援ができていくと良いと感じている。

[朝日雅也 委員長]

- 委員から様々なご意見を頂いた。第 2 回の会議で計画のたたき台を作っていく中に、本日のご意見を十分に反映するようにまとめていただきたい。

3 その他

- 事務局から次回の会議開催等の予定に係る連絡

4 閉会